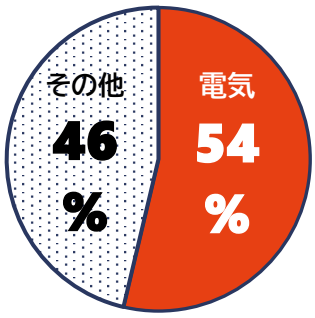
地震火災を予防するために
感震ブレーカーを設置しましょう

地震火災の半数以上が電気火災

過去の大地震では、電気に起因する火災が特に多く発生しています。東日本大震災では、本震による火災で原因が特定された108件のうち、半数以上が**電気火災**でした。地震直後だけでなく、停電後の復電時など時間が経ってから火災が起こることもあります。



東日本大震災における火災の発生原因
※日本火災学会誌　「2011年東日本大震災　火災等調査報告書」より

地震による電気火災

地震が引き起こす電気火災には、地震の揺れに伴う電気機器からの出火や、停電が復旧した時に発生する通電火災があります。

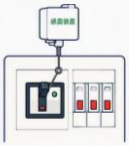
- 電気ストーブの転倒や、洗濯物など可燃物の落下
- 家具の転倒による電気コードの損傷やショート
- 水槽の転倒によるヒーターの接触や空焚き



電気火災対策には感震ブレーカーが効果的です

感震ブレーカーとは

一般的に震度5強以上の地震を感知し、電気を自動で遮断する装置です。
感震ブレーカーには、様々な種類があります。

タイプ			費用(目安)
分電盤タイプ（内蔵型）		分電盤に内蔵されたセンサーが揺れを感知し、ブレーカーを切って電気を遮断します	約5～8万円 ※電気工事が必要
分電盤タイプ（後付型）		分電盤に感震機能を外付けするタイプでセンサーが揺れを感知し、ブレーカーを切って電気を遮断します。	約2万円 ※電気工事が必要
コンセントタイプ		コンセントに内蔵されたセンサーが揺れを感知し、コンセントから電気を遮断します。	約5千円～2万円 差込型:電気工事不要 タップ型:電気工事必要
簡易タイプ		ばねの作動や重りの落下などによりブレーカーを切って電気を遮断します。	約2～4千円 ※電気工事不要

感震ブレーカーを設置する際は、急に電気が止まっても困らないための対策と合わせて取り組むことが必要です。

- 生命の維持に直結するような医療用機器を設置している場合、停電に対処できるバッテリー等を備えてください。
- 夜間の照明確保のために、停電時に作動する足元灯や懐中電灯などの照明器具を常備しましょう。

地震災害から生活を守るために

被害を少しでも小さくするためには？

対策ができているのか、チェックをしてみましょう！

揺れによる被害を最小限にするために備えること

- ☐ 家具類の転倒防止を実施していますか？
- ☐ 住宅の耐震診断を行い、必要に応じて補強をしていますか？
- ☐ 避難経路をふさがないように、出入り口の近くに物を置かないようにしていますか？
- ☐ 窓ガラスに飛散防止フィルムを貼ったり、近くに物を置くことを避けていますか？
- ☐ 火災対策に、住宅用消火器や感震ブレーカーなどを設置していますか？





被災後の生活のために準備しておくこと

- ☐ 食品や日用品を多めにストックしていますか？
- ☐ 避難生活に備え、必要最低限のものをリュックなどにまとめていますか？
- ☐ 避難経路や避難場所を知っていますか？
- ☐ いざという時の家族との避難方法や連絡手段を確認していますか？
- ☐ ハザードマップなどで、住んでいる地域の災害リスクを確認していますか？
- ☐ 地震保険に加入していますか？



地震保険広報キャラクター
なまペェ

被災後の生活を支える 地震保険

地震による損害は火災保険では補償されません。
地震保険への加入をご検討ください。

- 地震保険は、「地震保険に関する法律」に基づき、被災者の生活の安定に寄与することを目的として、政府と損害保険会社が共同で運営している公共性の高い保険です。
- 地震保険は単独では加入できず、火災保険とセットで加入する必要があります。
- 対象は居住用の建物と家財。契約金額は、火災保険の契約金額の30～50%の範囲内。契約金額の限度額は、建物5000万円、家財1000万円です。



- 地震保険では、地震・噴火またこれらによる津波を原因とする損害（火災・損壊・埋没・流失）によって被害を受けられた場合に保険金をお支払いします。地震を原因とする液状化の損害（傾斜・沈下）も支払いの対象になります。

損害の原因	火災保険	地震保険
地震・噴火・津波	×	○
上記以外	○	×

詳しくは損害保険代理店または損害保険会社までお問い合わせください.

茨城県　一般社団法人日本損害保険協会 関東支部 茨城損保会

【動画】
茨城県の自然災害に備える（地震編）